

の進みたいと思う道へ進みなさいと言っています。

田村 鳳声さんがまだ子供の頃、お母さまが訪問診療に伺う時にかばんを持って一緒にいて行かれたという話をお聞きました。

藤川氏 それは、中学進学を控えて精神的に不安定になった頃でした。

私は子供の鳳声を往診と一緒に連れて行き、患者さんを1件1件訪問して診察する姿を見せました。

私の姿を見て感じるものがあつたようで、自分も医師を目指したいと思い、親元を離れて全寮制の中高一貫校に進学する気持ちが固まったようです。

全寮制の中高一貫の 私立学校に進学させる

藤川氏 私は子どもたちを全寮制の中高一貫の私立学校に入学させました。

全寮制の学校に入学させたのは、医師をしていた私の生活リズムが子供の生活リズムと合わなかったからです。

私の仕事に合わせていたら夕飯も遅くなり不規則な生活になってしまいうので、全寮制は子供にとって生活環境でも勉強環境としてもとても良かったからです。

しかし現役での医学部受験には失敗してしまいました。長男の鳳声は元来のんびり屋で、私にも大丈夫だろうという油断があつたと思います。

今振り返れば、高校時代は外部の模擬試験なども受けていなかったですし、医学部受験の本当の厳しさや大変

さを理解しないままに受験に突入してしまつたのが敗因だったと思います。

また、何が何でも医者になるという本人の決意もすっかりと固まつていなかったこともあつたと思います。

医学部受験は先の見えない 競争をしているような 気がしていました。

田村 鳳声さんの医学部受験時代を一言で表現すると、どんな言葉になりですか。

藤川氏 私にとっては、長男の医学部受験ということと、浪人生ということではやはり不安が大きかった、の一言に尽きます。

その頃はちょうど医学部受験の競争率が上がつて来た頃でもあり、それこそ針の穴を通すような、先の見えない競争をしているような気がしていました。

現役受験に続き、大手予備校に通つた1年目も辛い思いをして、医学部受験に失敗してしまいました。

特に1年目の敗因は予備校の選択を誤つたことに尽きます。その大手予備校は鳳声には合っていないでした。その反省から2年目はきめ細かい指導をしてもらえる少人数制のメデユカパスで学びました。

どんな予備校を選ぶかは 非常に重要です。

藤川氏 浪人1年目は、有名な大手予備校に行きました。本人はそこにいけば何とかしてもらえると思つていたようですが、それは全くの間違ひでした。

受験生といつてもまだ子供です。社会経験も未熟で、集団の中で上手にやっていける人だけではありません。

その予備校では、生徒に対してのきめ細かな指導もなく、鳳声は授業に取り残されてしまいました。

ある時には、事情があつて遅刻してしまつたのですが、理由も聞かれずに厳しく叱責され教室に入れてもらえなかったこともありました。

入学当初は一生懸命頑張つていたのですが、夏休み位から気持ちがトーンダウンしてしまい、それから予備校にも行かなくなつてしまいました。

当然、本人はこのままでいいのだろうかと思分悩んでいたようでした。

担任も私に対して、子供の事を厳しく言うばかりでした。私はこんな状態で大丈夫かなという思いを抱いていましたが、やはり最初の1年間は無駄に終わつてしまいました。

予備校の選択を誤ると、本人が一番傷つき残念な結果になってしまうと痛感しました。

田村 大手予備校が自分に合っていないくて、失敗して傷つき、少人数制の医学部受験専門予備校に行かれて合格している生徒さんは結構多いですね。

私どもにはそのような生徒さんが多く入学してこられます。鳳声さんもそんな生徒さんの一人でした。

私どもでは生徒さんだけでなく、親御様にもきめ細やかな配慮でフォローを行い、後悔しない受験生時代を送つて頂くようにしっかりとサポート体制を作っています。

受験の失敗を家族会議で温かく 振り返り、新たに決意が固まる。

藤川氏 浪人1年目が失敗に終わった時に家族会議をしました。

1年目の挫折で迷いが生じていました。やはり一番大事なのは本人の意思です。

そこで、本当に医学部に行きたい気持ちがあるのかということをお兄弟も交えて話し合いました。

その時に鳳声は、兄弟全員で医者を目指したいという弟たちの思いや、家族が皆で応援しているということをあらためて深く理解し、迷いが吹っ切れて「本当に医学部に行きたい。」という気持ちが固まりました。

2年目は、自分に一番合った予備校を見つけようということで、資料を取り寄せ、興味を持った幾つかの予備校を一緒に回りました。その中から本人も私も納得して選んだ医学部専門予備校がメデユカパスでした。

メデユカパスでは通学ではなく、 あえて寮に入りました。

藤川氏 大手予備校の時は家から通学していましたが、朝私が仕事に出掛ける時に登校していないことがあつても、休んでいるのか遅刻しているのか分からないこともありました。

お互いの生活のリズムが違うために、通学の状況とか食事や健康面でも心配になることが多かったのですが、自宅から通学できる距離ではありましたが寮に入りました。